

学習や進路に理解を

秋田職能短大 高校進路担当に説明会

秋田職業能力開発短期大学校（中村雅英校長）は16日、同短大で高校の進路担当者を対象にした説明会を開いた。県内各地の13校から教員14人が参加。地元企業の講話や施

設見学を通して、学習面での特色や業界で求められる人材について理解を深めた。進路指導に役立ててもらおうと毎年開催。ものづくりの現場に必要な人材を知っても

らうため、地元企業による講話も組み入れている。大館桂工業の中田直文会長と、同短大卒業生で小坂製錬の社員・黒沢匠さんを招いた。

中田会長は会社の経営方針



中田会長の説明を聞く高校の進路担当者
(秋田職能短大)

や研修制度などを示し、同短大卒の社員の声として「実習が多く、実践的な技術が身につく」と紹介。「一般の高校卒に比べ、スキルが高く、建物に関しても基本的な知識がある。即戦力に近い人材として助かっている」と述べた。

黒沢さんは自身の体験を伝え、「実習が全体の50%以上を占め、さまざまな機械加工、設計等の知識・技術を習得できる」「優しく熱心に指導してもらった」と学生時代を振り返った。

参加者は各学科の施設も見学。同校の教育や取り組みについても教わった。